

Case 21-2006: A 61-Year-Old Man with Left-Sided Facial Pain

(Volume 355: 183-188)

【症例】 61 歳男性

【Problem List】

#1 左顔面痛

8 ヶ月前から、三叉神経の支配領域である左上顎部および左下顎部に間欠的な顔面痛が生じた。痛みには 2 つの要素があり、一方の痛みは非常に鋭敏な電撃痛で、食事、おしゃべり、ひげを触ることなどで引き起こされ、もう一方の痛みは鈍い拍動性の痛みで、比較的長く続く痛みであった。carbamazepine と gabapentin の投与が開始されたが、あまり効果はなかった。

#2 既往歴

高血圧、高コレステロール血症の既往がある。